

登壇者紹介

	<p>中谷 比呂樹 グローバルヘルス人材戦略センター・ディレクター、厚生労働省国際参与。 臨床研修終了後、公衆衛生に転じ、厚生労働省や広島県など国内公衆衛生・医 政・研究開発・福祉関係ポストと WHO を往復しながらキャリアを形成。WHO では本部事務局長補 (ADG) として数多くの幹部選考委員会の委員長を務める。 医師・医学教育学修士・医学博士。</p>
	<p>喜多 洋輔 外務省国際協力局 国際保健戦略官 厚生労働省に入省後、HIV/AIDS 対策、予防接種法改正、介護保険制度改正に従 事。その後、世界保健機関 (WHO) ジュネーブ本部出向 (マラリア対策等)、地 方自治体 (山口県) 出向 (健康増進対策)、厚労省大臣官房国際課国際保健企画 官 (ダイヤモンド・プリンセス号対応を含む COVID-19 対策) を経て、2020 年 より国際連合日本政府代表部参事官として NY に赴任。2024 年 8 月より現職。 医師、公衆衛生学修士、行政学修士</p>
	<p>坂田 裕太郎 Associate Specialist, Donor Relations Department, The Global Fund 2023 年 9 月に入職し、渉外部にて日本政府を担当。グローバルファンド入職前 は三井住友銀行にて中東・アフリカ地域の非日系顧客や米国のテック企業向けの ファイナンス及び企画業務に従事。2023 年 2-9 月は Junior Professional Officer (JPO) として UNCTAD のサービス貿易チームに所属。慶應義塾大学 (経済学 士)、ロンドン大学 SOAS 校 (持続的可能な開発修士)。</p>
	<p>辻井 一晃 Senior Program Officer, Grant Management Division, The Global Fund 現在ナイジェリアチームで HIV 対策を担当。グローバルファンド入職前は、 UNICEF ニューヨーク本部と UN Women レバノン事務所で女性に対する暴力対 策や平和と安全に関するプロジェクト形成活動に従事。国連での勤務以前は、三 菱商事にて途上国でのインフラ開発案件や投資管理業務に従事。ユニバーシテ ィ・カレッジ・ロンドン (開発行政・計画修士)、ブリストル大学 (政治学士)。</p>
	<p>馬淵 俊介 Head of Resilient and Sustainable Systems for Health and Pandemic Preparedness and Response, The Global Fund JICA、マッキンゼーの日本、南アフリカオフィスを経て、世界銀行 (アフリカ地 域の保健システム改善のチームリーダー)、ビル&メリンダ・ゲイツ財団 (プ ライマリーヘルスケア戦略担当副ディレクター等) で勤務。コロナ禍には、WHO の「パンデミックへの備えと対応のための独立パネル」事務局メンバーとして活 動。2022 年 3 月より現職。グローバルファンドの保健システム強化及びパンデ ミック対策への支援を統括し、その改革を推進。ハーバード大学ケネディスク ール (公共政策修士)、ジョンズ・ホプキンス大学 (公衆衛生修士・博士)。</p>
	<p>Joris Lacroix Lead, Talent Acquisition, Human Resources, The Global Fund グローバルファンドの人事部のリクルートチームのリーダー。エグゼクティブサ ーチ会社の銀行・金融部門、さらにスポーツ、メディア、エンターテインメント 部門にて、リクルーターおよび新規事業開発の勤務を経て、2021 年にグロー バルファンドに入職。ボストン大学 (経営学修士)、ベサリウス大学 (コミュニケ ーション学士)。</p>